

7月上旬、森の民話茶屋
に入る手前の曲がり口に
咲くアジサイが綺麗です。

時の流れの早さ
をふと忘れて、
季節の美しさ
を感じられる道です。

店舗情報

OPEN：6月6日(土)～11月15日(日)

土・日 10:30～14:30
(平日：12名以上の団体様のみ
利用可。ご相談ください)

☎ 土・日：森の民話茶屋 0243-24-7410
☎ 平日：大玉村役場産業課 0243-24-8096

〒969-1302
福島県安達郡大玉村
玉井字前ヶ岳国有林7林班

Google MAP
での道検索が
便利です

森の民話茶屋・大玉村の民話をいつでも、どこでも、身近にお楽しみください／



森の民話茶屋
Instagram
を見る



森の民話茶屋
通信 Vol.1～22
を見る



森の民話茶屋
通信 Vol.22～35
を見る

こんにちは、元大玉村地域おこし協力隊の遠藤です。
今年の3月末で卒隊しましたが、引き続き、森の民話茶屋の運営と森の民話茶屋通信の発行に携わらせていただいています。

森の民話茶屋にいた地域おこし協力隊の3年間、民話から、そして茶屋でのあたたかな交流から「言葉の大切さ」「伝えることの大切さ」を学びました。

「言葉を大切にすること。大切なことを伝えること。」今では、私の大切な人生の軸になっています。森の民話茶屋は、訪れた方それぞれの感じ方や楽しみ方が溢れる穏やかな空間です。

民話や交流、そして郷土料理を楽しむゆったりとした時間が27年間大切に育まれてきたからこそ、村内外・県内外問わず多くの人の心の拠り所として、愛されているのだらうなと感じています。

そんな素敵な森の民話茶屋の魅力・大玉村の民話の魅力を広く深く伝えていくお手伝いができるよう、丁寧に、森の民話茶屋通信の発行に取り組んでいきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

Design Studio 三時茶／遠藤愛佳

2026
7月号

森の民話茶屋通信

Vol.36



27年目の森の民話茶屋、今年もオープンです。

新緑が風に揺られる季節、大玉村の静かな森の中、たくさんの想いと
思い出が溢れる森の民話茶屋にあかりが灯りました。

「人がいてこそ建物が生きる。」

今年も半年間、たくさんの素敵な出会いを楽しみにしています。

森の民話茶屋運営委員会



6月6日、冬期休業が明けて森の民話茶屋が再オープン！
半年ぶりに茶屋にあかりが灯りました。
27年目のオープン式も、開店を心待ちにしてくださったお客さま、
来賓のみなさま、豊かな自然に囲まれながら、茶屋メンバー揃って
迎えられたこと、嬉しく思います。

「森の中でひとやすみ」

心と身体にやさしいお食事と民話を楽しみに、ぜひ森の民話茶屋へ
足をお運びください。今年も素敵な出会いがあることをスタッフ一同
楽しみにしています。



森の民話茶屋お膳
1,500 円

手間暇惜まず作られた
ふるさとの味が詰まったお膳。
美味しくてどこか懐かしい
心と身体にうれしい伝統食です。



抹茶・コーヒー
500 円

静かな大玉村の森の中、
自然の音や色に
癒されながら
ホッとひとやすみ。



民話
お代はお客様の笑顔です。

泣いて笑って・・・
良いねえ民話
語り部があなたに
届けます。

森の民話茶屋 店主からのごあいさつ

今年も大勢のお客様です

茶屋は、今年も賑わっています。

例年より半月遅く6月6日に冬期休業から再オープンしたのですが、今年もお客様で賑わっています。

朝の開店前から駐車場に車を止め、車内で待機、「準備中」から「営業中」に看板が代わるのを「今や遅し」とばかり待っていて下さるお客様や、初めて来店して頂いた男性五人組が「入って良いですか？」と恐る恐るお席に着いたり・・・。

そうです。女性のお客様が7割の茶屋なのですが、実は男性大歓迎の茶屋なのです。

メンバー 一同一際大きな声で
「どうぞ！どうぞ！！」の合唱です。

又、初めてのお客様に、それとなく「どちらからですか？」とお聞きすると「埼玉からです。」・・・と。
その6人の方はフォレストパークにキャンプ、3泊していて「以前から森の民話茶屋に来たいと思っていたんですよ」とおっしゃいます。
美味しいお膳と民話を楽しんで帰られました。
「又、来ますネ」と書いたメッセージカードが残されていました。

後藤みづほ (2026/06/15)

「合同民話祭」を開催しました！

2026/01/24 あだたらふるさとホールにて

冬期休業中の1月、郡山市「湖南民話の会」の

皆さまと合同民話祭を開催しました。

大玉村からは小学生3名・森の民話茶屋メンバー3名。

湖南民話の会からは小学生3名・大学生1名・

湖南民話の会会長。両会合わせて11名の語り部が、
それぞれの地域で語られてきた民話を語ってください
ました。なんと最年少は、湖南民話の会の小学2年生！

「きいて 語って たのしもう！」というタイトル通り

語り部の皆さん、ご来場いただいたお客様、運営スタッフ、会場全体が一体となり、語りに耳を傾けました。
年齢も、地域も、民話を聴くのが初めての方も、語り部歴も関係なく、民話を聴いて一緒に笑い、悲しみ、
感情を共有し、おはなしの世界に心を開いて楽しむことができたあの空間はとても充実したあたたかな
雰囲気、まるで今から100年前、200年前、もっと昔の時代
を生きた人々が、囲炉裏を囲んで一家団欒の時間を
楽しんでいた時代が戻ってきたようでした。

語りは「語る人がいて、聴く人がいて初めて成り立つ」
ものです。語るだけでなく、聴くことも、継承に繋がっていく
のだと思います。これからも、ふるさと大玉村の民話を
大玉村全体で大切に楽しめたらいいと思います。



ご来場いただきありがとうございます！
皆さんからの嬉しいメッセージも
受け取りました。



喜怒哀楽
大歓迎！



地域の恵みや茶屋の願いを学び、 民話を楽しむ♪ ～玉小3年生53名が来店～

6月12日(金) 9時40分から玉井小学校3年生
53名と先生3名が来店、一度に全員は入れないのでフィールドワークと交代で、楽しい時間を過ごしました。
民話茶屋の成り立ち、27年目であること、村の築40年の素敵な建物で地域のお母さんやお婆ちゃんが運営していること、県内外からお客様を迎え、喜ばれている茶屋であることを話し「名倉山と苗松山がけんかした話」や「狸の太鼓」「頭に柿の木」を語りました。特に「頭に柿の木」は急げ者の話なので、宿題をやりたくない時の御まじない(折り紙さいころ)を手づくりで用意していたものをみんなに手渡しました。

バスに乗っても手を振り続けている3年生でした。

子ども達に話していて、この建物に出会い茶屋を始めようと思ったきっかけを昨日の事のように思い出しました。

それは、カウンターに引かれていた水でした。

『冷たくて美味しい水を活かした地域づくりをしなければ勿体ない』...そうです。そうでした。

全ては安達太良山の伏流水の価値に魅かれ始まったのでした。「安達太良山の恵みの水」です。

杉田川には遠藤ケ滝、百日川には百日清水、安達太良川には三森池と……物語り、伝説を育み今に伝える事を改めて学び直しました。3年生の皆さん、
ありがとう。又茶屋に来て下さいネ。

後藤みづほ (2026/06/16)